

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道7号 大館西道路 <small>おおだてにし</small>		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：秋田県大館市櫃崎 <small>あきた おおだて ひつざき</small> 至：秋田県大館市商人留 <small>あきた おおだて あきひとどめ</small>			延長	8.8 km	
<p>事業概要 日本海沿岸東北自動車道は、新潟市を起点として山形県酒田市、秋田市を経て東北縦貫自動車道と連結し、青森市に至る延長約320kmの高規格幹線道路である。</p> <p>大館西道路は、日本海沿岸東北自動車道に並行する一般国道の自動車専用道路であり、日本海沿岸東北自動車道の一部として機能し、都市間所要時間の短縮を図り広域的な連携・交流を促進する高規格幹線ネットワークを形成するとともに、主要施設へのアクセス向上等に寄与することを目的としている。</p>						
S57年度事業化		H8年度都市計画決定		S59年度用地着手		H元年度工事着手
全体事業費		480億円		事業進捗率		72% 供用済延長 4.6 km
計画交通量		12,900台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年 平成22年
	(事業全体) 1.8 (残事業) 6.8	(残事業)/事業全体 133億円/659億円 事業費：107億円/605億円 維持管理費：27億円/54億円		(残事業)/事業全体 901億円/1159億円 走行時間短縮便益：757億円/973億円 走行経費減少便益：108億円/144億円 交通事故減少便益：37億円/41億円		
<p>感度分析の結果 残事業について感度分析を実施</p> <p>【残事業】 交通量変動：B/C=7.4(交通量 +10%) B/C=6.1(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=6.3(事業費 +10%) B/C=7.3(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=6.5(事業期間 +20%) B/C=6.8(事業期間 -20%)</p>						
<p>事業の効果等</p> <p>①高規格幹線道路ネットワーク構築 ・秋田県北地域の連携・交流を促進する高規格幹線道路の骨格を形成する。 ・能代市～大館市の所要時間の短縮が図られる。</p> <p>②能代港へのアクセス向上 ・秋田県北地域のリサイクル関連施設と能代港との移動時間の短縮が図られる。</p> <p>③三次救急医療圏域の拡大 ・北秋田市民病院（三次救急医療施設）の60分カバー圏域人口の増加が見込まれる。</p> <p>④広域観光ルートの形成支援 ・世界遺産白神山地を代表とする観光資源に対し、東北道からのアクセス性が向上し、十和田湖から男鹿間の新たな観光周遊ルート形成に寄与する。</p> <p>⑤大館能代空港へのアクセス向上 ・秋田県北地域の空港30分カバー率（人口ベース）が上昇し、更なる観光・産業等の交流の活発化が見込まれる。</p>						
<p>関係する地方公共団体等の意見 大館西道路は高規格幹線道路ネットワークの一部として、時間短縮効果による日常生活の利便性の他、秋田県北地域並びに秋田県・青森県相互の地域間交流の緊密化等が期待されており、秋田県より早期整備の要望を受けている他、多くの団体から同様の要望を受けている。 県知事の意見：継続に異議ありません。県民の安全・安心の確保、地域活性化を図るため、一層の事業推進をお願いします。</p>						
<p>事業評価監視委員会の意見 対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。</p>						
<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。</p>						
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率72%、うち用地進捗率100%</p>						
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗に係る問題はない。</p>						
<p>施設の構造や工法の変更等 ・新技術活用（移動式土質改良機）によるコスト縮減 ・橋台背面部盛土にFCB（気泡混合軽量土）の採用によるコスト縮減</p>						

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



大館西道路



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。